

1 消防・防災について

(1) 消防団団員数の減少について

① 団員条例定数の考え方について

消防団員の条例定数の見直しについての考え方と伴う課題を伺います。

② 災害時の元消防団員・元消防職員の協力について

団員数の減少で、全国的に機能別消防団員を導入しているが消防団や常備消防のOBの災害時協力の考えと課題を伺います。

③ 消防団員への処遇改善について

磐田市独自の家族表彰等、市の前向きな改善は進んでいますが、消防団の維持を図るため消防団プレミアムカード等、より幅広く処遇を考える必要があり、新たな処遇により入団者が増えることも考えられますが、市の考えを伺います。

(2) 防災対策について

① 突発型地震対策について

国が大地震の予知が不可能とした背景や現状、市の体制の変化や課題を伺います。

② 災害時やその備えの行政と市民の役割について

避難所運営のあり方など従来の訓練で養うのは難しく、地域の防災リーダーの育成が急務であり、そこには行政の支援が必要と考えますが、災害時やその備えに市民と行政の役割、そして課題について伺います。

③ 地域の防災対策について

交流センターを中心とした防災組織の構築を進める中、突発型地震になると消防組織等、地域での救助活動が難しくなる中、地域の災害想定に合わせた特色ある装備が必要になると考えますが市の考えと方向性、課題を伺います。

2 まちづくりについて

(1) 多世帯支援について

① 多世帯同居への支援策について

多世帯支援は磐田市では中古住宅リフォームの工事費で3世代同居や近居の場合に補助額が加算されていますが、空き家抑制の観点と多世帯支援の観点を分け、家族の支えあいを推進するために、多世帯の住まい支援事業として単独事業にしての支援策が必要と思いますが、考え方や課題を伺います。

(2) 空き家対策について

① 空き家の調査方法と対応について

磐田市では、家屋照合調査に合わせて27年から5年間をかけて調査をしていますが、ひとり暮らしの高齢者世帯が近々の調査では5年間で1,200世帯以上も増えております。

この現状を踏まえた上で平成32年度以降の調査方法と対応を伺います。

② 空き家のリノベーションについて

地域活性化の観点から、空き家の利活用でリノベーションすることにより空き家が使用目的に準じて生まれ変わり、地域の活性化につながります。住まいだけでなく住居から店舗、店舗から住居へと利用はさまざまです。

福祉の面からも富山型デイサービスに見るように、介護が必要な高齢者、障がい者、障がい児、子どもも集まる身近にある場所デイサービスの場としても利用していました。

利用目的に合わせて幅広く支援する事ができれば、今後増えていく空き家を抑制すると考えるが、市の考え方を伺います。